

オオオニバスとオニバスの供宴

岡 島 一 允*

兵庫県にあるレジャーランド、宝塚ファミリーランド（植物園、動物園、遊戯機、歌劇を運営管理している）は、阪急電鉄創遊事業本部に所属している。

この宝塚ファミリーランドの夏の風物詩と言え、**「オオオニバス」**の栽培で知られている。世界一の浮葉を持つこの植物は、ブラジル、アマゾン川流域を原産地としている。

宝塚での栽培の歴史は古く、1937年5月、温室に水槽を設け開始された。その後5年間栽培観賞を続けられたが、第2次大戦による燃料不足で中止、当時の関係者は断腸の思いであったろうと察する。1952年より栽培を再開し、やはり温室内で栽培していたが、オオオニバスを自然の姿で観賞する目的で、1955年より夏期に限り屋外の池で栽培を試みた。その栽培技術は今に伝えられている。現在栽培しているのは2種類である。

Victoria cruziana Orbign. パラグアイオニバス
V. regia Lindl. オオオニバス

栽培については、温室内で播種、育苗して毎年6月、園内にある池へ定植し、その後、肥培して8月下旬になると葉の直径が1m60cm位になる。開花は2日間だけのはかない命である。1日花は、16:00頃より花卉が見え始めると同時に芳香を放ち、日没後（19:00頃）より開花が始まる。そして23:00頃より満開となるが、夜咲きのためほとんどこの花を見る機会がないのは残念な事である。翌朝、水面上で閉じ、2日花は日没より開花始め、20:00頃より満開になる。翌朝（3日目）は水没する。花色は、1日花は白色、2日花は淡桃色である。夏のイベントとして、宝塚歌劇団の生徒や入園している子供達に葉の上に乗ってもらって、テレビ、新聞のニュースとして話題を作ってきた。

最近、異変が起こり、この植物の最大の特徴である葉が大きく生長しなくなり、また、葉数が少ない状態が続き、何が原因なのか、いろいろな角度から考えているところである。ところが、今年（1999年）、オオオニバスを栽培している池にオニ



図1 オオオニバスとオニバスのロケーション

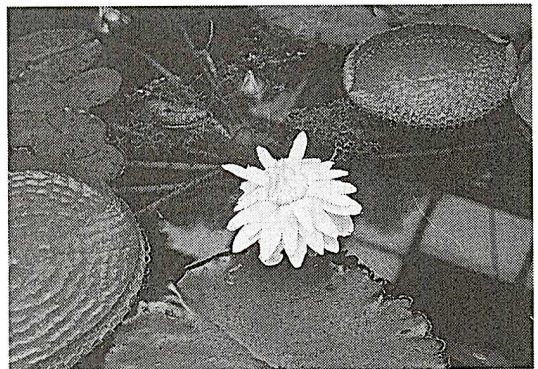
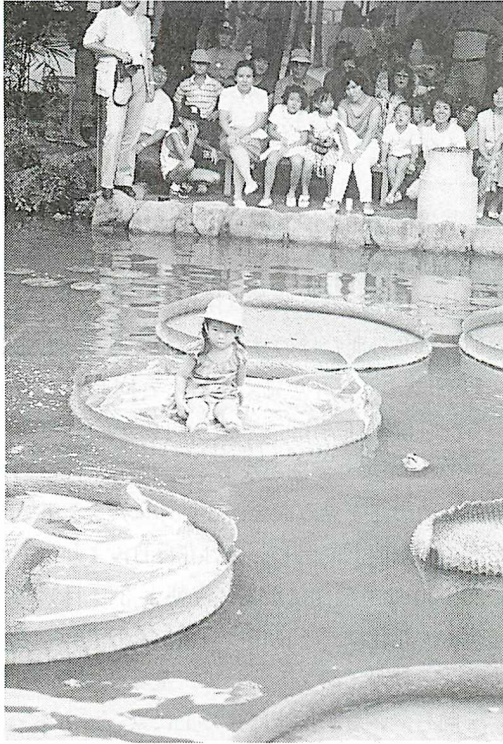


図2 オオオニバスの1日花

*阪急電鉄



バスが発生し、いつのまにか、オオオニバスと共生するように生育を始めた。4株も発生した。

環境にあったのか、みるみる生長し、8月下旬には直径1m40cmにもなり、本来のオオオニバスの生長を脅かすようになり、オニバスがいつのまにかメインになってしまった。この池でのオニバスの栽培については、はっきりした事は不明であるが、相当以前に栽培されたようで、その後全く見る事はなかった。今年になって発芽、生長するとは……。

1999年2月初旬に、10日間程、栽培池の中を通っているジェットコースターの支柱の補修工事が行な

われ、その間、池の水は排水され空であった。作業は寒中で、乾燥状態でもありオニバスの埋土種子が何かのショックを受け、発芽したのであろう。

神秘的な生命を持った、不思議な植物であると思う。イベントとしてのオオオニバスの葉上に乗ってもらう事はできなかったが、それ以上に私達に話題を作ってくれた「オニバス」に感謝すると共に、夢を語らせてくれたと思う。来年、このオニバスは、発生するかどうかかわからないが、やはり本命の「オオオニバス」が大きく育ち、葉の上に子供達を乗せてみたいものだ。